

第2回 寒河江市立学校のあり方検討委員会 議事録

日 時 令和元年10月3日(水) 午後3:00～

終了 午後4:50

会 場 市役所1階 議会会議室

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 事務局からの説明

(1)～(4)・・・質問等なし

※協議に入る前、前回欠席の委員から自己紹介

4 協 議

(1) 寒河江市立学校のあり方に関するアンケート調査の実施について

○学校教育課 大沼課長

～資料3について説明～

○委員長

アンケート内容についてはこの場ですぐにご意見を出すのは難しいと思いますので、それぞれ気づいた点は来週末10月11日金曜日まで電話、FAX、メール等で事務局へ意見を出してください。

(2) 中学校の適正規模について

ア 現在の配置状況、通学距離について

○学校教育課 大沼課長

～資料4について説明～

○指導推進室 佐竹室長

～資料4：学校運営にするにあたり、どういった点が変わってくるかについて説明～

○委員長

学校の定数については、学校関係者以外の方には複雑で大変わかりづらいところがあります。非常勤の先生や免許外等様々ありますが、おおまかに考えていただいているのではないかと思います。この計算された先生方の数で学校の子ども達を見ていくのだということかと思えます。その中で教科によっては、危ういところがあるということかと思えます。

この委員会で答申するのは令和3年12月ですが、検討すべきことを段階的にやっということで、今年度は中学校のあり方、来年度は小学校のあり方について、令和3年度に総括していく方針として事務局では考えておりますので、今日は中学校のことについて説明いただいているところです。次回は1月の予定ですが、そこまで話し合いの場がありません。今日もそんなに時間もなく、意見が出にくいところもありますが、寒河江市における中学校はどう

あればいいのか、現状のままでいいのか、統合を考えるべきなのか、統合なら何校体制が良いのか、みなさんからご意見をいただきたいと思います。

○委員A

小学校も含めて子どもの数が非常に少なくなっている中で、正直検討してもどうにもならないのかなと思うところもあります。河北町は中学校1つですが、寒河江市の場合、人数的に1校統合は厳しいにしても、現状の3つというのはどうかと思います。ただ、地理的に考えると醍醐地区の場合、寒河江川により分断され距離が遠くなると思うので、慈恩寺橋と三泉橋の間に橋を1本新設することで、大きく利便性が違うのではないかという思いがあります。そう考えると2校というのが理想ではないかと思います。

○委員B

資料を見ますと1校や3校は厳しいかと。いろいろ考え方はありますが2校になるのかなと思います。

○委員C

資料の中の人数を見ますと、2校体制がいいのではないかなと思います。理由としては、中学校での部活動について、令和10年度の陵西中の生徒数を考えますと、部活動の数にも制約が出てくると思われます。これからいろいろなことをしていくにあたっていろいろな経験ができたほうが良い、選択肢も多いほうが良いのではないかと思うので、人数的なことを考えると2校体制が最適だと考えます。そこで、問題となるのが敷地です。陵南中の現状の校庭の敷地面積を考えると十分だと思いますが、陵東陵西が統合した場合、どこに学校を建てるのかという問題が出てくる可能性があります。

○委員長

今部活動の話題が出ましたが、現状として3校の部活動の数についてはどうなっているのでしょうか。

○委員D

陵南中は運動部が16、17になると思います。文化部は2、3になると思いますが、現在は維持していくのが大変な状況です。部活動については新たな動きも出ていて、近隣の町では単独の学校での参加が難しいこともあり、今後現状の部活動体制が維持されるかはわからないところがあります。

○委員長

西川町の学校評議員をやっていますが、生徒数が100名いないので部活ができない状況があるわけです。そのような状況もふまえた上での新たな動きではないかと思います。

○委員E

現在の各中学校の生徒数を見ると、やはり3校よりも2校の方が良いと思います。部活動以外でも、例えば学校行事において生徒同士での活動が多くなると思います。そういった場合に少人数の中で活動する方が良いのか、コミュニティということを考えて少人数はいいところもあるが様々な価値観の生徒がいる中で、3年間の中で成長していくことを考えると、少人数よりももう少し大きい規模でも良いと思います。

○委員長

それでは、思い切って1校という案はいかがでしょうか。

○委員E

1校では1000人近い規模になるため、人数が多すぎてはたしてそれでよいのかわからない。1学年が1クラスだけの中学校よりはもう少しクラスがあつていろいろな人と関われるような1学年に複数クラスがある方が良いのではないかと思います。

○委員F

今後のスケジュールとして、まず中学校の再編、次に小学校の再編という進め方ということで、委員がおっしゃったように陵西中学校を陵東中学校といっしょになってどこに建てるかというのもあると思うが、そうすると西部地区から中学校がなくなり、小学校の話はまだ聞いていませんが、小学校もなくなる可能性があるのではないのでしょうか。人数が少ない学校の統合は仕方ないとは思いますが、その緩和措置というか、今ある校舎を活かしながら小中一貫型の学校を設けるということも、1つの可能性としてあるのではと思います。中でも部活動は、学校の配置によって大きく左右されます。子どもに好きな部活動をやらせたいという保護者の方が多い一方、お年寄りの方々は地域の核としての学校がなくなることに對してものすごく抵抗があるとのことでした。

今後のスケジュールに反する意見になってしまうかもしれませんが、1つの可能性として陵西中学校区内での小中一貫ということも可能性としてはあるのではないかと思います。

○委員長

今の校舎を活用しながらということですか。

○委員F

いずれは古くなり建て替えというのも当然あるが、教育委員会の方で今後新しく校舎を建て替えるということになれば、建て替えには5年先、10年先、あるいはもっと長い時間を要すると思いますのでその間の緩和措置ということもあるのではないかなと思ったところです。

○委員G

今、2校体制ということで話がありましたが、今までいろいろな方と学校のあり方ということで話をしたところ、陵東と陵西を統合して3校から2校という意見もあれば、3校から1校

でいいのではないかという意見に分かれております。先ほども話に出た部活動や地域コミュニティの話もありましたが、今回の資料を拝見したところ、令和10年度に969人という数字が出ており、13年度にはわずかな期間で更に約70人ぐらい減少しております。その後どう推移していくのかはまだわかりませんが、私としてはこのまま900名台を維持することは難しいと考えております。10、20年後を見据えると1校に統合するという考え方も今から考えて良いのではないかと思います。

実質、参考資料を参照すると、現段階で令和19年度の山形市立第六中学校は748名とのことで、人口ベースで考えていったほうが20年後の将来が見えやすいのではないかと思います。

○委員長

さらに先を見た場合ということですが、今後の人口推移はどのようなのでしょうか。人口推計は予想ではありますが人口が減るのは明らかではありますが。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

現在の寒河江市の人口分布は完全な壺型であり、30、40代は若干多いのですが、10、20年後子どもを持つ年代が急激に少なくなっております。市の人口減少対策としまして、推計ではありますが2030年から2040年の年少人口比率というものを示しております。その中で、現在約5200名の年少人口が2020年には5000名、2030年には4820名になります。ただ、市でも力を入れいくとのことですので2040年は盛り返して5000名と推計しております。

あくまでもこれは推計に過ぎませんが、現実的に母親父親になる方が減少することは確かですので子どもの数も減少する可能性が高いと考えられます。寒河江市の一番の課題は人口減少対策だと考えているため、現在市をあげて子育て支援やIターン・Uターン支援など対策は講じております。推計値から大きく増減することはないかと。

年少人口とは15歳未満の人口。現状としては同じ年齢の子どもが300人程度になっている。

ただ、出生数が2000年においては400名を超えておりましたが、その後300名台を推移しておりました。2016年には300名を切りまして291名でした。翌年はさらに減少して268名、2018年はやや持ち直しまして289名となりました。ここ数年間300名を切る状態が続いております。

○委員長

そういう現状で、20年後、30年後を見越した場合に1校体制でもあり得るのではないかという意見でした。

○委員H

2校体制となった場合は陵東と陵西が一緒になって1つの学校、陵南中がそのままということですが、先ほど話にも上がりましたが、小学校単位で学区編成について考えていくと状況が

変わっていくのではないかと。現在みずき団地の子どもが寒河江小学校、陵東中学校に通学しておりますけれども、その先の本楯地区から中部小学校に通学している子どももいます。学区が入り組んでいるところを整理すると、陵東中学校と陵南中の人数も変わってきます。

委員のお話を聞いて、2校にして、その後人口が減ってまた考えなくてはいけないので20年後を見据えると初めから1校に統合した方が財政的にも良いのではないかと思います。校舎の老朽化を考えると、築50年を超えている陵東中学校などは早急な対応が求められますし、中学校から検討を始めて、その後小学校という順で今回議論する予定ですが、私は小学校の配置も考えながら中学校について進めていく必要があると思います。

○委員長

今、論点としまして二点上がっております。一点目は、小学校の学区をこのまま維持すると中学校の生徒数のバランスが崩れるのではないかとということです。二点目は、校舎の建て替え費用についてです。ちなみに、1校につきどのくらい建て替え費用がかかるのでしょうか。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

新聞記事の南沼原小学校にかかった費用は45億121万円ですが、この場合はPFIという民間資金を活用した上で建てて、所有権を自治体の方におき運営を委託するという方式でして、15年間の運営費も含めた金額となっております。

○委員長

単純に学校1つ建てるのに数十億かかるということ。このような金額の投資を考えた時に、将来学校がどうあるべきかということかと思えます。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

ただ、これは建設を契約した会社との金額でして、他の諸経費については相当な金額になると思いますが計上されておられません。南沼原小学校についても、諸経費を含めると60億ほどになるのではと思います。

○委員長

いずれにせよ相当な金額になると思いますが、そのあたりも含めて考えていただきたいと思えます。

○委員A

陵西中学校の生徒数が少ないため、2校であれば陵西と陵東を統合するという方針で話が進んでおりますが、住民にはこのような「地区の生徒数が少ないため統合する」ということはできる限り言わない方向で進めたいと考えております。あくまで「市内全体をみた上で再編した」というかたちにしないと、統合して結果的に学校がなくなった地域は非常にマイナスなイメージを抱くと思えます。市内全体を見直して学校を編成したという考えで進めてほしい。

○委員長

今のご意見は大変貴重だと思います。学校統合となると地域の感情が際立ってきます。市全体での学校のあり方というのがこの会の趣旨でもあります。その際に小学校の学区をもう1度見直さなければ、それは成し得ないというところもある。

○軽部教育長

学校を統合するということは考えられますが、逆に学校を分けることは難しいかと。会議の中でそれでも学校を分けるという方向に話になるのかはわかりませんが、やはり住民の感情を考慮した場合、今ある学区を分割して、新たに別の学区とくっつけるというのは難しいのではないかなと思います。そういったことをあえてせざるを得ない、今のアンバランスな状況なのかということが議論になれば、そういうこともありうると思いますが、今は総合的に考えながら議論していく

中学校の中でも、現実的に令和10年度より先の人口推移という視点、財政的視点からもご意見ありましたが、過去の経験を繰り返して嫌な思いをしてはならないという住民の思いなどもあり、今回お集まりいただいた皆さんの中には、大学教授や住民の方などさまざまな立場の方がおりますので、総合的に意見を出していただいて折り合いをつけながら多くの住民の方に納得いただけるかたちで方針をまとめていただければと思います。

○委員長

先ほどもお話ありましたように、住民にマイナスな感情を抱かせるのではなく、「この再編は、一步前へ進むためのもの」というプラスなイメージで進める必要があります。そのあたりを意識いただきながらご意見をいただければと思います。

○委員 I

中学校の再編に関しては、私も3校から2校にすることが良いと思いますが、コミュニティスクールや小中一貫とのご意見もありましたが、そのことも考えなければいけないのでは、と思います。そうするとやはり小学校も合わせて考えていかなければと思います。総合的に考える必要があると思います。その中でもわかっていながら、陵西学区の話を知ると、全体を見た時に、全体で考えましたよ、といえるものであったほうが良いのかもしれない。だとするならば、中学校のことについて議論しても、もっと総合的に考えたほうがよいのではないかと思います。

○委員長

中学校と小学校を切り離してできないと思います。学区のことや小中一貫校等も含めてご意見を出していただいたほうが前へ進むという感じがします。小学校も一緒に考えていくことも必要だと思います。

○委員 J

1校体制が最適かと思っておりましたが、小学校を含めて考えると難しいですね。学区を変

えることは、素人考えですが大変であることとは思いますが、これから変えていくしかないと思います。今後の人口減少を見据えると2校建てるのはもったいないですし、やはり、1校で例えば中山中の様なものを建てるのが良いと思います。

○委員長

学区をいじるのはどれだけ大変なのかと思いますが、その点教育長はどうお考えでしょうか。

○軽部教育長

各々の地区の思いがあって、学区再編はなかなか大変だと思います。学区を編成し直せば、均等に学校を配置することは可能かもしれませんが、ただ機械的に配分して良いものではありません。そこはやはり十分に話し合うとか、皆さんが理解できるような線で、今小学校の話も上がっていましたが、小学校の方を1校にまとめることは難しいことだとすれば、学校によって児童数のアンバランスができて、ある程度は仕方がないのではと思います。

○委員G

先ほど小学校と絡めてという話がありましたが、中学校を1校にするか2校にするかの場合には、学区は関係なくなるのでは。2校の場合には、数字からみて陵南中学校はそのままで、陵西と陵東が統合することになります。まず、中学校の最終的な数を決めて、次に学区編成を考えるとという話の進め方はダメなのでしょうか。中学校の数と小学校の学区編成を別々で考えても良いのでは。

○委員長

その点は別々で考えることは難しいと思います。中学校と小学校はセットで考えなければならぬかと。例えば中学校2校になった場合、陵南中学校の学区は現状維持で、陵西中学校と陵東中学校の学区を再編するという流れが基本です。その中で、小学校の統廃合も行われるということになります。中学校を何校体制にするのかということから考えて、その次に小学校の学区編成について考える手順になると思います。

○委員K

白岩小学校の来年度入学児童が9人ということで、男子3人、女子が6人ということで、白岩のスポーツ少年団もなくなってしまいましたし、中学校の部活が不安です。地区全体もですが、小学校の役員は必ずみんながあたって協力していくという形になっているが、中学校に上がった時に、人数が少なく、やはり子どもたちの部活動など、選択肢が少なくなってしまうと思います。そう考えると、どうせ建てなければいけないということであれば、1校に統合して規模を大きくして子どもたちに選択肢を多く与えてあげた方が良いのでは。子ども達の選択肢が少ないので習い事で市中心部まできているのが現状ですが、児童数が少ないと遊ぶ環境もある程度きまってきますし、友達は密となっていくのかもしれませんが、さまざまな人と関わりがあった方が子どもたちにとってはプラスになると思います。

中学校2校体制だと、陵西地区は住宅の分譲地もなく、仮に分譲しても人が集まらないとす

れば、陵東中学校と陵西中学校を統合しても人数が減っていき、20年30年後を考えると陵南中学校と最終的に統合して1校体制にならなければならない状況になるのではないかと思います。ただ、小学校の件もありますので、並行して考えていく必要がありますが、私は現段階では1校体制が良いと思います。

高松小学校の方も児童数がかなり減っていて、保護者の間では児童数が少ないと感じていて、早い段階で小学校の統合もした方が子ども達もいろんなかかわりが出てきて良いのではと、保護者の意見を聞くので、その点も含めて、小学校中学校を並行して考えていければいいなと感じました。

○委員長

1校体制、2校体制の話が出ました。現状のままというのではないということでしょうか。今までの委員の方のご意見について、校長先生方に学校として、地域の社会教育の立場でご意見をお伺いしたいと思います。

○委員L

高松小学校は陵西学区ですけれども、委員の皆さんの意見をなるほど聞いておりました。高松地区を含めた陵西中学校の現状を考えると、令和10年度、13年度の表を見ますと1クラスとなっております。教職員も9名しかおりません。子どものこと、教職員のことを考えた場合、やはり限られた環境で生活しなければならないこととなります。もっと広いところでさまざまな人と関わりながら、活発に競い合いながら子どもたちが育っていければいいなと感じるところがある。

ただ、先ほどもお話ありましたように、小規模の学校ならではの良さもあります。地域との関わりが非常に密接で、地域の人たちと関わりながら子どもたちが育っているところも大事にしたい。具体的に何校が適切かは一概に申し上げられませんが、小規模には小規模の良さがあることも踏まえていかなければいけないと思います。

また、高松地区の学童保育を考えると、昔からのコミュニティで生活しているわけであって、「自分たちの地域は自分たちで」という意識がありつながりが強いです。そのつながりを分けるということは、私自身抵抗がありますし住民の感情を考慮するとなかなか学区を分けることは難しいと思う。

○委員M

中学校と小学校は並行して考えていく必要があります。個人的にはありますが、中学校に関しては1校体制が良いのではと思います。令和10年のスタート時は1,000人規模になりますが、かつて昔はあった規模であるし、今後20、30年後を考えると、2校にしてさらにもう一度このような学校のあり方を考えることになるのであれば、この時点で、寒河江市の魅力ある中学校は初めから1校と決めた方がシンプルで良いのではと思う。

ただ、小学校においては検討を重ねていく必要がある気がします。南部小学校は陵南学区内ですけれども、中部小学校は児童数が増え、南部小学校と柴橋小学校は逆に減っております。このように、同じ学区内においても学校によって異なる現状もあり、そこでどのように進めて

いくのかは、住民や保護者の方の意見もありますし慎重に考えていかなければならないと思います。簡単に線引きでというわけにはいかず、住民感情が出てくると難しくなるところもあるので、慎重に進めなくてはいけない。

初めに申し上げた通り、中学校は1校に統合したほうが、その先の話もスムーズに進むのではと考えております。

○委員D

今日の会議に参加する前は、現実的には住民感情等も含めて、中学校2校体制が適当なのかなと考えておりましたが、皆さんの意見を聞くと1校体制も良いと思いました。2校ですといろいろな対立が出てきたり、小学校の学区編成などもありますし、1校にするとなると、みんなが集まって魅力ある学校を作ろうということになれば寒河江の一体感も生まれるような気がします。

ただ、通学の問題や大規模校に多い不登校の問題などデメリットももちろんあります。そういった問題の対応も今後必要になりますが、可能性が広がり夢のあることだと思います。

○委員N

20年後を考えると確かに中学校は1校の方が良いのかもしれませんが、学区割については、人口が増えている際に分けても問題は起きないと思います。大規模校となりますと、やはり生徒一人一人に目が届くかという点が問題になるかと。

次回の議題になると思いますが、小学校をどうするかということも大事になってくると思います。小学校は特に地域コミュニティ、つまり昭和の大合併前の旧村との関連性が大きいです。そこに結びついた学校がなくなるというのは、地域の象徴がなくなり、戦前戦後で学校建設に補助金がきちんと出ない時代に、その地域からお金を出し合って、学校林などもそうですが工面していた経緯がありますので、地域の象徴としての学校がなくなることは大変なことであるわけです。特に、寒河江市の場合は各地区の公民館である分館が機能しており、そういったところがコミュニティが一致しているのでそういうところは学校がなくなった後もある程度アイデンティティを持ち続けると思います。

一市町村一学校になっている戸沢村なども旧小学校区ごとの公民館が機能しており、地域のアイデンティティが機能している学校ところもあります。西川町がやや雲行きが怪しく、中央公民館があり、条例上は公民館が13館ありますが現状は普段カーテンが常に閉まっている状態です。その下に集会所があるという体系ですが、学校の授業の中で合併前の旧小学校エリアの地域学習できることになっていて、6年間で町内全ての旧小学校エリアを学習するというプログラムになっております。コミュニティというところでは難しさもあります。

東根市では、経済的余裕もあるのかもしれませんが市長は統合しないという方針です。その中で、高崎小学校の事例を紹介しますと、「放課後子ども教室」というものをやっております。勉強したり室内遊びをしたり学童保育と一体化した放課後支援の取組で、他にも外国語活動を行ったり特色を持たせて、小規模特認校として市街地からも通学可能となっております。導入して2、3年目から入学者が倍増しました。

このような、学校ごとの個性を出して学校の運営を維持していくということでもあります。た

だし、学校をなくさないということが大前提となります。特色を持った小学校を維持していつて、大規模な学校と特色のある学校を選択できるというあり方というのがある。例えば、山寺小中学校は人数が徐々に減っておりますけれども、小規模特認校となっており不登校児を積極的に受け入れるということをやっています。

中学校の議論の後に小学校のあり方について考えた時に、特色を持って学校の維持を図るということも選択肢の一つだと思います。ただ、その際に教育委員会任せではなく地域全体で学校を支えるコミュニティスクール等、合意形成なされたうえで進めるべきものであって、行政主導では続かないものです。行政がある程度のビジョンを示して、それに対して地域に意思があったときに成り立つものであります。実際のところかなり紛糾するかもしれませんが、住民の方々の総意をとりながら、子育て世代と地域住民との差というのが感じるところもあるので、子どもたちの多様な学びを保障したい、だけど小規模もいい、小規模ゆえに密接なつながりや個々に目をかけてもらえる良さというものを考えながら、議論を進めていく必要があります。寒河江市の場合は、公民館が機能しているということで、そこはポジティブに捉えて良いのではと思います。

○委員長

委員の皆さんからひととおりご意見をお伺いいたしました。(2) 中学校の適正規模についてはここで閉じさせていただきます。

(3) について事務局よりお願いします。

(3) 今後のスケジュール

○事務局（学校教育課 大沼課長）

～資料5を用いて今後のスケジュール、アンケートについて説明～

～次回まで各委員の皆さんにはいろんな方の意見を聞いておいていただいて、次回につなげて欲しい。中学校以上に小学校が地域コミュニティと深く関連しているため、住民の同意が重要であることを再確認。そのため小学校の開催を多くとっている。～

○委員長

次回までいろんな人からの意見を聞いておく必要があると思っている。次回は持ち寄った意見を十分に出し合って、決する場ではありませんが、ある程度の方向性をもって中学校について考えて来年度に移らせていただければと思っている。

(4) 質疑応答

○委員

アンケートの対象から中学校3年生を抜いている理由はどのようにしてなのでしょう。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

中学校3年生を入れるか悩みましたが、卒業されるということで保護者の方の興味も薄れるのではないかと思います。対象人数のこともあり、3,000人程度が適当な数と思っ

たところもあるので3年生を外すこの人数になりますのでそうしたわけですが、幼稚園から中学校3年生までの人数ですと、3割程度の方が兄弟姉妹おりますのでその分アンケートの数も減ると思います。そういうことですので、中学校3年生まで含めて対象とする形でアンケートを検討したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員長

アンケートに関するご意見は12月11日までに出していただくのはいかがでしょうか。趣旨をしっかりとご理解いただけるようにアンケートの中に提示してやるのも必要だと思います。

○委員N

中3となると総仕上げになっているところもあるので、今までの小中学校の教育を振り返って、という保護者の方もいるので、アンケートに中3を入れてはいいのかもしれない。

○委員H

年少も入れたほうがいいと思います。令和10年の時に中学生なのが年少なので、保護者の方々がイメージしやすいのではないのでしょうか。

○事務局（学校教育課 大沼課長）

中学校3年生から年少までを対象としたいと思います。

○委員長

少しでも保護者の方々が理解いただけるような形での検討をお願いしたい。